

◆ 今週のコメント

- ・ チクングニア熱(平成23年2月1日から四類感染症に追加)発生届出の様式について
感染症予防法の平成23年1月14日付改正により、平成23年2月1日から、チクングニア熱が四類感染症(全数把握対象感染症)に追加されました。届出様式は下記からダウンロードしてください。
○京都市保健福祉局保健医療課ホームページ「感染症発生動向調査事業に関する届出様式」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000043726.html>
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、8.55(342例)です。定点医療機関の患者数は先週に比べやや減少していますが、医療機関等での集団感染事例が増加していますので、ご注意ください。
- ・ 伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.33(13例)で、先週に比べやや減少していますが、平成22年の第33週(8月16日～8月22日)以降連続して過去5年平均値を上回っています。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は、20.73(1,389例)で、引き続き増加しており、全国では、警報レベルの30.0を超えています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 2例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ	20.73	1,389
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	8.55	342
	② 水痘	1.05	42
	③ 流行性耳下腺炎	0.55	22
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.43	17
	⑤ 伝染性紅斑	0.33	13
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

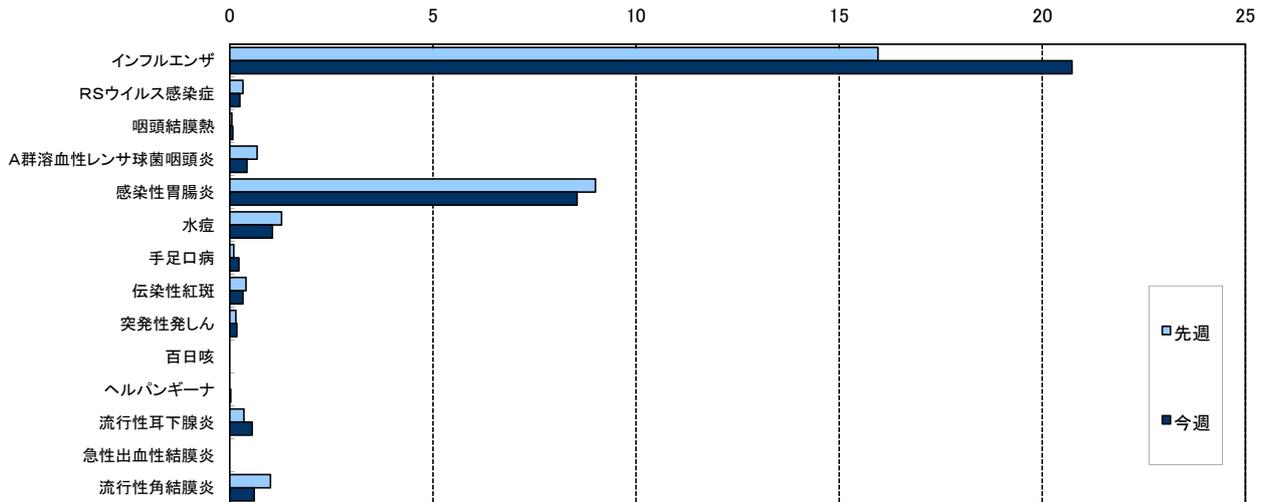
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注)京都市のデータは、平成23年2月3日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

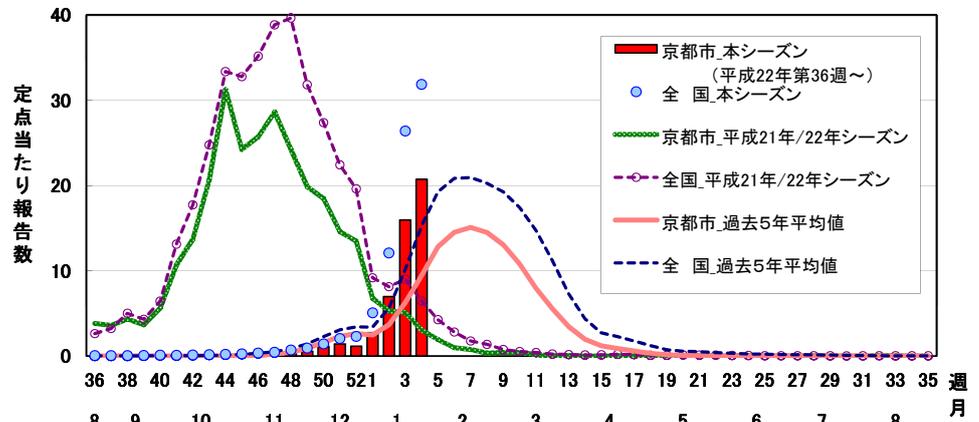
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第4週)と先週(第3週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

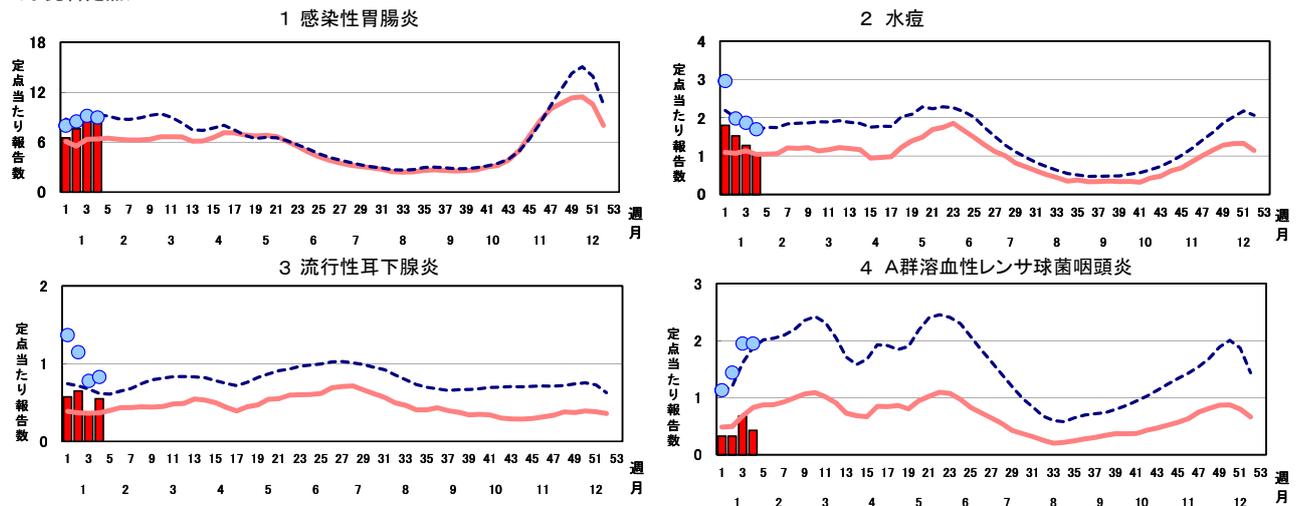
週	報告数(例)
第52週	77
第1週	183
第2週	467
第3週	1,069
第4週	1,389
累積報告数 (第36週以降)	3,486



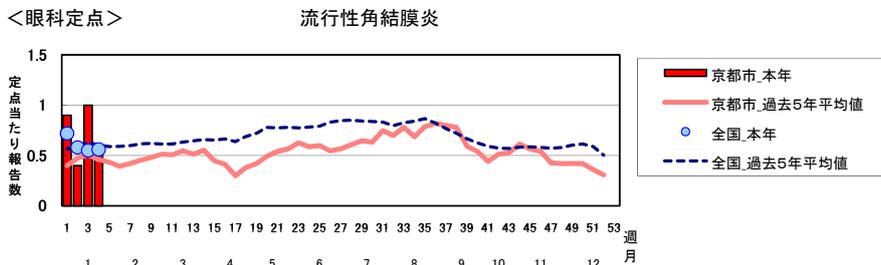
※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



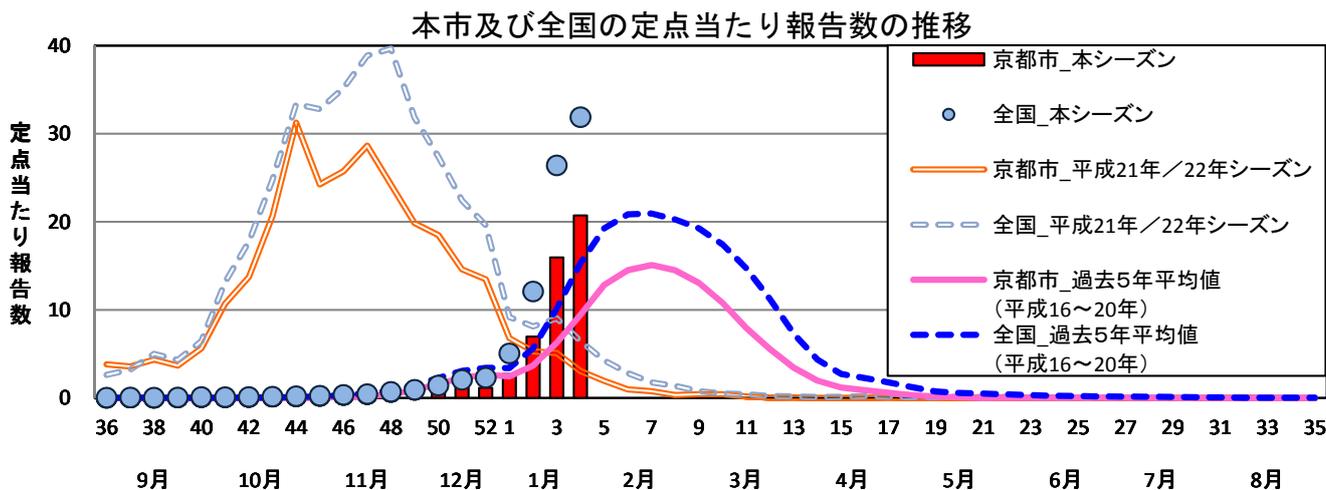
第4週(1月24日～1月30日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は、20.73(1,389例)で、引き続き増加しており、全国では、警報レベルの30.0を超えています。

年齢階級別でみると、14歳以下の割合が50.32%(699例)を占めており、例年と同様に、冬休み期間の終了した第2週以降、上昇しています。

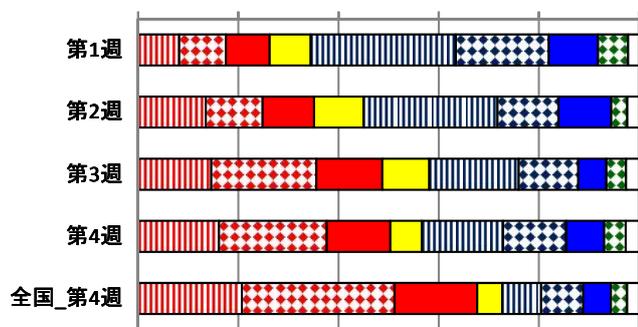
都道府県別定点当たり報告数の推移では、全ての都道府県で増加を続けていましたが、今週は、沖縄県等、先週の報告数を下回る場所もみられます。

京都市衛環境研究所において、今シーズンに分離検出したインフルエンザウイルスは、散发事例からAH1pdm21例、AH3型5例、B型2例、集団事例からAH3型4例(3事例)、B型6例(3事例)となっています(第4週採取分まで)。



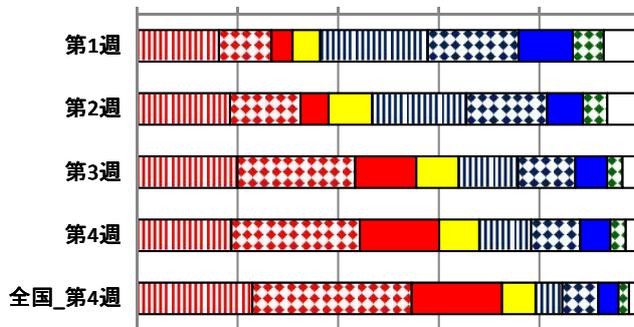
年齢階級別割合の推移(本年)

0% 20% 40% 60% 80% 100%



年齢階級別割合の推移(平成17～21年平均)

0% 20% 40% 60% 80% 100%



0～4歳 5～9歳 10～14歳 15～19歳 20～29歳 30～39歳 40～49歳 50～59歳 60歳以上

各都道府県別定点当たり報告数の推移

